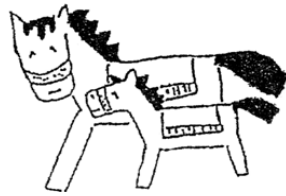


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

27年 9月 NO. 250



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～

9月の主な活動

～お気軽にどうぞ～

9月 5日	土	体験保育 10:00～12:00	お子さまと同じ年齢のクラスに入っていっしょにあそびましょう。
9月 19日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験に おいで下さい。
9月 25日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師（小児科）にゆっくり 相談できます。（予約要）
9月 25日	金	おはなしの会 10:00～11:30	お月様やたぬきの絵本読みや わらべ唄あそびをします。
9月 26日	土	手品教室 14:00～16:00	新聞紙を使って、こぼれない水 手品をします。どなたでもどうぞ。
9月 30日	水	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	井本久美子講師が「子育て・孫育てで困っている ことは？」をテーマに実技やフリートークします。

・火～金の13時～16時までは、園内開放しています
ので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談（月～土）9：00～18：00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター

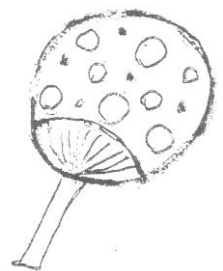


金子みすゞ童謡全集⑥
さみしい王女・下

なぞなぞなぞなぞなぞなぞなぞ
なんにもなくなアに、
夏の昼の小さい風、
それは、団扇ですぐえるよ。

たくなぞなぞなぞなぞなぞなぞ
さんあって、とれないものなアに。
それは海の青い水、
それはすぐえば青かない。

なぞ



最近は、サラリーマン川柳やシルバー川柳を目にするたびに本音や皮肉が短いことばの中に凝縮されていて、思わずニヤっとしたり、上手に表現しているなと感心したりします。

それと似た表現でホッとするものに、文学上ではナンセンス詩といわれるものがあります。ことば遊びを伴うユーモア、皮肉、風刺など、自由と解放にあふれた詩を今年5月に創刊された「ざわざわ—こども文学の実験—」（四季の森社）より、ご紹介します。

※少年詩におけるナンセンス詩

菊永 謙

先へ進まない数えうた
いちだいでも霊きゆう車
いっぽんでもにんじん
ひとりでもサンタクロース
いっそうでもヨット
ひとさらでも五目めし
いっこでもろくろ
いちわでも七面鳥
いっぴきでもくまんばち
いっとうでもくじら
いっぱいでもジュース
川崎洋詩集「しかられた神様」
(1981年 理論社)

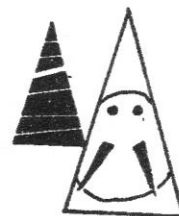
少年詩の世界にあってナンセンスな詩にこだわって、へんてこでおかしな詩ばかり書いている風変わりな詩人がいる。詩集『へんてこらんど』（1997年 リーブル）、『でたらめらんど』（2004年 いしずえ）、『ふしぎらんど』（2012年 四季の森社）の3冊を刊行している岩佐敏子である。現実の世界をさかさまに見立て奇妙でおかしな世界を形づくっている。

元々はわらべ歌にある数えうたからヒントを得て今日風な事物も取り入れておもしろおかしく展開し子どもたちにもたのしくとなえられることば遊びと云えよう。数えうたの要素も含んだ村上知義ともよしの「ぶたがぶたれた」などは、今日の保育園や小学校でも子どもたちが喜んで口ずさむ一篇と云えるだろう。音韻のひびきを上手に生かしたりリズムカルさが、子どもたちに楽しさとほほえみ、ユーモアをもたらすだろう。同時に、ぶたがなぜしかられ、ぶたれたのかというドラマの謎解きも魅力を与えていよう。

ぶたがぶたれた

ぶたがぶたれた
ぶたにぶたれた
なぜぶたれた？

いちで いばって
にで にらんで
さんで さわいだら
しで しかられて
ごで ごつんと
ぶたがぶたれた

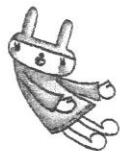


村上 知義

大人や現実社会が当然の約束事として平然としている価値観をゆさぶり、多くのひとが正しいと信じている事柄を^や擲^ゆ揄して、既成の概念をゆるがし壊す試みをいくつもおこなっている。

おばあちゃん思い

おばあちゃんは
ことし 99歳



同じ年ごろのひとは
もう みんな 遠くにいっちゃって
話し相手がなくて
さびしがっている

ぼくは おばあちゃんが
きのどくになって
いってあげた

「ぼくが 99歳になったら
かならず おばあちゃんの
話し相手になってあげるから
まっいてね」

岩佐 敏子

1年生

春はピカピカの1年生がいっぱい

ランドセルをしょった小学1年生
新しい制服姿の 中学生や高校生
むずかしい試験に合格して入学できた大学生
学校を卒業してとびこんだ社会人1年生
そして

今年から老人会に入会して

はりきっている

うちのおじいちゃん

やかんそっくりの ピカピカの頭からは
老人会1年生の

沸き立ての ゆげがたちのぼっている

春は みんなまばゆくかがやいている

岩佐 敏子



4月の春先に、毎年多くの者たちがピカピカの輝きを放ってそれぞれのスタートを切る光景が描かれている。もし、前半だけの描写だけならば、よく見られるごく当たり前な光景となろう。今年から老人会にデビューする（やかんそっくりの ピカピカ頭から）（沸き立ての ゆげがたちのぼっている）おじいちゃんの張り切っている姿をえがくことで、この作品はある皮肉やおかしみと云った異和の感情を放ち始め、読み手の心を乱し始める。確かに春は、ピカピカの1年生であふれまばゆく輝いてはいるのだが、その向こう側には、4月そろそろの五月病の社員や受験競争にくたびれ果てよれよれな大学生、社会生活でくしゃくしゃになった老人たちの姿も、見事にほの見えてくる。新入生を迎えてピカピカのスタートを切る現代社会の制度そのものを、いっぽうにおいて皮肉化し風刺し、ユーモアを持って批評しているとも読める一篇とも言えようか。岩佐敏子の作品には、とぼけや含み笑い、からかい、風刺の香りがどこかに秘められている。ひとには、多種類の感情が渦巻いているのかもしれない。大多数な感情や世情とは少し異なる微妙な感情や思いをも表

現し意思表示しようとする精神が、彼女にナンセンスなでたらめ詩やへんてこな詩を創作させるのかも知れない。

りっぱな子ども

「はい と言いなさい」
おとなはなんでも「はい」って言うの？

「すききらいしないで食べなさい」
おとなはきれいなもの ないの？

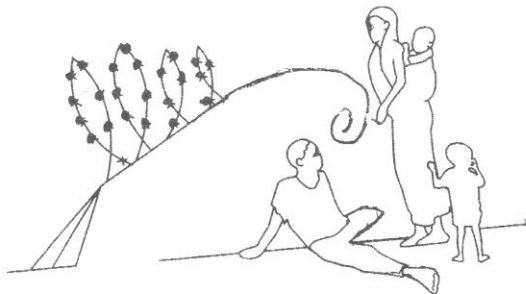
「ケンカしないでみんなと仲良くしなさい」
おとなはケンカしない？

「泣かないの！」
おとなはぜったい泣かないの？

村松 良美

大人や親は、子どもの前ではそれなりに威厳を持って堂々と接しなければならない。現実的な都合のもとに、私たちは往々にして子どもに「すききらいなく食べなさい」などと言い放つが、親もまた親としての成長過程であり、眼前の子どもの言葉やしぐさ、表情によって親として育てられている一面もなくはない。「親の小言と冷や酒は後で効く」のことわざにも時にうなずかされるが、親と子は代々相克し合う者であり子は親を乗り越えていく存在なのであろう。村松良美の詩行は、「りっぱな子ども」だが、親を親たらしめている風景を提示し直している。

(村松良美詩集「ねこの秘密 2003年いしずえ」より)



普通の家庭でいつも繰り返される親子の会話が、そのまま詩行として提示されている。子どもは親から何度もその時々小言を頂いて成長し、大人になっていく。そして、その子どもが親になった時、同じように自らの子どもにも小言を繰り返す。親子の風景としてありふれた場面と云えよう。

波

ちゃんと宿題やったの？
ザッブーン
テレビ消して もう寝なさい
ザッブーン

ザッブーン ザッブーン……………

お母さんの小言は
波、波、波……………
寄せては返す
波、波、波……………

決して足をとられるな
のみこまれるな
自分の心に 言い聞かせ
踏んばってきたけれど
海と遠く分かれた今は
なんだかちょっぴりなつかしい
あの 波の音 村松 良美

※少年詩とは、童謡や幼年詩と大人の詩の間の年齢の人に向けている詩のことです。